

■早矢仕有的 実業家。福沢諭吉に共感、維新直後に{丸善}を創業、外国書籍輸入以降幅広い事業に取り組むも、挫折。

はやしゆうてき

大塩平八郎乱1837=

美濃国笹賀村で、医師山田柳長の子に生まれる。誕生前に父が病死したため、母のためは庄屋早矢仕才兵衛のもとに身を寄せ、その養子となる。幼名は左京。

幼少より明敏で、

阿部正弘首座1845= 8歳 :

孝明天皇・1846= 9歳 :

1851=14歳 : 大垣へ出て蘭学を、その後、名古屋で医術を修め、

万次郎帰国・1852=15歳 : この頃、代診を始め、

ペリー来航・1853=16歳 : 母も死去。

開国開港・1854=17歳 : 帰郷。元服して有的と名乗り。養家で、医者を開業。

安政大地震・1855=18歳 :

村民にも尊敬されたが、その才能を惜しんだ中洞村庄屋高折善六に勧められて、

安政の大獄・1859=22歳 : 江戸に出、坪井信道に蘭法医を学びながら、

桜田門外変・1860=23歳 : 日本橋で医者を開業、

生麦事件・1862=25歳 : 薬研堀に診療所・調合所を建て、

1863=26歳 : 結婚。英蘭辞書を入手。

禁門の変・1864=27歳 :

「名医と言われるまでになるが、

薩長同盟・1866=29歳 : 診療所を続けながら、\_谷信敬の英学塾に入り、

大政奉還・1867=30歳 : 廃業して、\_志に共感する福沢諭吉塾に入り、日本の国力充実には貿易振興と痛感、

明治維新・1868=31歳 : \_横浜に新築の梅毒病院に赴任するが、

初の日刊新聞1870=33歳 : 米医シモンズとともに諭吉の重病を快癒させる。\*東京日本橋通に、恩人高折善六にちなんで、書店{丸屋善七}を開店、外国書籍輸入を始め出版に進出、桑田衡平訳補「袖珍薬説」を処女出版。ついで唐物店(洋品)、

ト・ル・ショック・1971=34歳 : 横浜十全病院計画を先頭に立って推進し、医員に勤務。

学問のすすめ1872=35歳 :

\*福沢諭吉が慶応義塾内に設立した洋服仕立局を受継いで仕立店(洋服)、さらに指物(洋家具)・薬店を開き、「丸屋商社之記」ならびに社則を定め、会社組織によって経営。

明治6年政変 1873=36歳 : 内務省衛生局参与。\_「帳合之法(西洋簿記)」を採用し、その普及をはかるため講習会を開き、

佐賀の乱・1874=37歳 : 家族連れて東京に戻り、以後は実業一筋。\_社内の生命保険ともいべき「社中死亡請合規則」を設けて実施するなど、近代的経営を積極的に採用。

三つの反乱・1876=39歳 : 三男が誕生するも、直後に妻が死去。

琉球処分・1879=42歳 : \_{丸家銀行}を設立。神奈川県会議員となり、

1880=43歳 :

\*副議長。日本初の株式会社に改組、{丸善商社}にし日本橋店を本店とする。{貿易商会}を開設。

明治14年政変1881=44歳 :

新体詩抄・1882=45歳 : 外山正一ほか撰「新体詩抄」出版。横浜正金銀行や明治生命保険創立にも関わる。

岩倉具視没・1883=46歳 : チャンブル編、西村茂樹ほか訳「百科全書」などを出版。

秩父事件・1884=47歳 :

\*経済的変動で{丸家銀行}が破産したため、{丸善商社}の社長を辞任して、もっぱら{丸家銀行}の整理にあたり、盟友諭吉との縁も切れる。その後は全てから引退し、

初の対等条約1888=51歳 : {丸家銀行}消滅。

帝国憲法発布1889=52歳 :

足尾鉍毒始・1891=54歳 :

郡司千島探検1893=56歳 : 改称された丸善株式会社の取締役を迎えられる。

日清戦争始・1894=57歳 :

ピアノ国産化・1900=63歳 :

田中正造直訴1901=64歳 : 肺浸潤及び胃腸カタルで、\_福沢諭吉の後を追うように、没した。